

TABLE FOR TWO

かわら版 Vol.10
2011年10月発行

これまでに集まったご寄付(2011年9月末現在)

1,067万5,191食

約4万8,500人の子どもの1年分の学校給食になります。

ルワンダ、バンダ村カゲノ幼稚園

幼稚園から始まる コミュニティー参加型の給食

小学校での給食は、子どもたちの健康的な成長を支えるだけでなく、勉強の機会を創出するという役割を果たしています。一方、幼稚園での給食は、子どもたちの健康面での役割が最も重要な側面とされています。乳幼児期に栄養失調の状態が続くと、その後も健康的に成長することが難しくなるとされており、乳幼児期には特に栄養豊富な食事を取ることが必要とされています。TABLE FOR TWOでは2010年9月から、ルワンダ国内の2地域(マヤンゲ、バンダ)にて幼稚園での給食の支援をスタートしています。

サハラ以南アフリカの多くの国では、子供を幼稚園に通わせることはまだ主流ではありません。小学校教育と異なり、幼稚園は政府からの資金援助がない場合が多く、コミュニティーや各家庭が運営維持にかかわる費用を負担しなければなりません。一方で、幼稚園は大事な役割を果たします。給食を通して子どもたちの健康を持続的にサポートします。また幼い子どもたちが幼稚園に通うことで、これまで彼らの世話をしていた本来であれば小学校に通うべきである小学校就学適齢期の子どもたちも、学校へ通えるようになります。このような現状の中、TFTの支援先ではコミュニティーが一体となって幼稚園給食の運営を行っています。給食は地域住民によって調理され、また調理の際に必要な燃料も地域の環境に配慮した資源が用いられています。

TABLE FOR TWO 事務局代表より

6月に視察でバンダ村を訪れた際、村道を歩いていると、すれ違った下校途中の幼稚園児が、「Hello teacher, how are you today?」と完璧な英語で声をかけて来ました。飛び上るほど驚きました。彼らの両親は英語を話すことはおろか、文字すら読めない人たちが大半であるのとは対称的に、子どもたちは世界と繋がる階段を昇り始めています。貧困解決に大きく寄与するであろう幼児教育の機会を提供しているのもTFTの給食だと成果を改めて実感しました。



(代表・小暮真久)

Porridge

幼稚園に通う子どもたちが食べる給食は、ポリッジと呼ばれるお粥のようなものです。ソルガム(トウモロコシの一種)や大豆の粉末に、プロテインやビタミンを添加し、熱湯と混ぜ合わせて作られます。子どもたちの家庭では栄養バランスを考慮した食事をしたり、3食満足に食べる機会もなかなかありません。小規模農家が大部分である各家庭では、多品目の作物を必要量生産するのは難しい状況にあります。そのような環境の中、子どもたちが幼稚園に通うことで、美味しく健康的な食事をする機会が生まれています。

ルワンダ共和国

- 首都:キガリ
 - 民族:フツ族84%ツチ族15%ほか
 - 言語:ルワンダ語、フランス語、英語
- 東アフリカ経済共同体(EAC)に正式加盟したルワンダは、タンザニア・ウガンダ・ケニア・ブルンジの周辺4国とともに、2007年7月より加盟国間を統一市場とする自由貿易を予定。国家をあげて、更なる発展を目指す。



エネルギーも地産地消

ブリケットと呼ばれるリサイクル燃料が作られています。段ボールや木くずを水に浸し、筒状に圧縮したものを1週間程乾燥させることで、このブリケットは製造されます。バンダでは今夏からブリケットの製造が始まり、地元住民たちの雇用を生み出すと同時に、近い将来には給食調理時の燃料を100%ブリケットへ転換することを目標としています。このブリケットの製造は、地域独自の力で長期的に給食を維持していくための重要な要素となっています。

TFT支援地域の多くでは、給食調理時の燃料をどのように確保するかという点も、重要な課題となっています。環境にも配慮しながら、安定的なエネルギー源を確保するために、幼稚園給食支援地域の一つであるバンダでは、

- What is TABLE FOR TWO? -

社員食堂やレストランでヘルシーメニューを食べると、その代金のうち20円が寄付され、アフリカ(ウガンダ、エチオピア、タンザニア、マラウイ、ルワンダ)の学校給食1食分になるという社会貢献事業。